

審判上の確認

審判委員長

- 1 本大会は、2022年度公益財団法人日本バレーボール協会9人制競技規則によって行う。
- 2 競技参加者は、公式競技規則に精通し、これを守らなければならない。
- 3 サービス順の確認時にサービス順に記載されていない選手がいたときは、チームは記載されている選手に戻さなければならない。その選手を出場させたいときは、サービス順の確認が終わり両チームの選手がコートに入った後、試合（セット）開始前に正規の選手交代を要求し、その選手をコートに入れることができる。
- 4 選手交代の要求とは、コートに入る準備のできた交代選手が選手交代ゾーンに入ることをいう。この場合それぞれのセット開始前の選手交代、およびコート内の選手の負傷等による選手交代を除いて、監督は選手交代のハンドシグナルを示す必要はない。同じ中断の間に2組以上の選手交代をするときは、同一の要求とみなせるようにすべての交代選手が同時に選手交代ゾーンへ出向かなければならない。
- 5 選手交代は1セットにつき6回まで要求することができる。ただし同じ中断中に連続して要求することはできない。先発選手は1セットにつき1回だけ交代してコートを離れることができる。また1セットにつき1回だけ自らの交代選手と交代してコートに戻ることができる。
- 6 ネットプレーを予測してネットに接近し、身体を前に出したり手および腕を前に出して、相手のネットプレーを妨害した場合は反則となる。
- 7 ボールの全体または一部が、許容空間外側のネット垂直面を越えて、相手側のフリーゾーンに行った場合、チームに許された接触回数のなかでボールを取り戻すことができる。
- 8 インプレー中、選手がネットおよびアンテナに触れたときはタッチネットの反則とする。ただしアンテナの外側のネット、およびボールをプレーする一連の動作中でないときに触れても相手チームの選手のプレーを妨害しない限り反則としない。
- 9 監督は試合中、チームベンチの最も記録席に近い場所に座るか、試合を妨害したり遅延させない限り、選手交代ゾーンに引いたラインの延長線からウォームアップエリアまでの自チームベンチ前のフリーゾーン内で立ちながらでも歩きながらでも指示を出すことができる。